

考える力



保育園生活の中で子どものこころが大きく動く瞬間があります。
昨日から今日にかけて
目には見えにくいけれど
「成長」につながることもたちの思いや考えのエピソードを紹介します。

梅仕事 はじめました

Jくんの自宅にある梅の木に、今年は梅の実がたくさんついたそうです。
昨日枝ごと持ってきててくれたのですが
鈴なりに実った梅の実にみんなでびっくり!
早速みんなで梅シロップをつくってみよう。
梅の実と素精糖を入れて一晩おいた今朝、観察してみると
素精糖に水分が付いて色が濃くなっている部分を発見しました。

「どうしてぬれているんだろう」「さとうがとけたら うめはどうなるのかな」
玉ねぎの皮染めの体験、そして今回の梅仕事では、自然物力を借りて
物の成り立ちと出来上がるまでの不思議さと面白さを感じることが出来
ています。来週以降も、その変化を観察していきます。



相手のきもちと自分のきもち

築山の土壟を動かしてトカゲを探していた虫好きチーム。
土壟の下を掘っていくと見つかるのを知っています。
けれどこの土壟は、保育園のおとなたちがメンテナンスのために一つひとつ敷き詰めてきたもの。

「子ども主体の保育」というけれど、それは子どもがなんでも好き勝手にしていいということではないのです。子どもに限らず「一人ひとりにとって」という視点で考えて対応する保育者の主体性も重要になってくるということ。
虫探しに夢中になる子どもの行為を尊重するのと同じように、メンテナンスした人の行為や思いを尊重すること=気付くことも必要な事。みんなで相談した結果、今回は土壟をもとの通りに置くことになりました。人、それぞれに様々な考え方や感性があるということを知った出来事です。